

第 1 回オープンフォーラム

日本の事業承継－先達から学ぶ 21 世紀の姿

日時：2010 年 6 月 25 日（金曜）17:30～19:35

場所：同志社大学寒梅館 KMB208

主催：一般社団法人事業承継学会

同志社大学技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）

後援：京都商工会議所

プログラム

17：30～17：35 開会の辞

中田喜文（本学会代表理事、同志社大学 ITEC センター長）

第 I 部 基調講演

17：35～18：15 石田隆一（株式会社イシダ取締役会長、本学会理事）

「企業の永続と発展」

18：15～18：55 横澤利昌（亜細亜大学教授、本学会理事）

「老舗企業（100 年）から学ぶ事業承継」

第 II 部 先達に聞く事業承継の知恵

18：55～19：30 小林林之助（株式会社あみだ池大黒代表取締役会長）

聞き手：河口充勇（同志社大学 ITEC 研究員、本学会理事）

19：30～19：35 閉会の辞

講演者プロフィール

石田隆一（株式会社イシダ取締役会長、本学会理事）

昭和 12 年、京都生まれ。昭和 35 年 3 月、同志社大学経済学部卒業。同年 2 月、石田衡器製作所（現・イシダ）に入社。昭和 42 年 12 月、同社代表取締役社長就任。平成 22 年 5 月、同社取締役会長就任。その他、日本包装機械工業会会長、日本包装リース取締役会長、廣池学園理事、同志社大学経営戦略懇談会諮問会議委員、中内学園アドバイザースタッフなどを歴任。大蔵大臣納税表彰（平成 11 年）、藍綬褒章（平成 14 年）、経済産業大臣表彰（包装機械業界振興功労、平成 18 年）、旭日中綬章（平成 21 年）などを受章。



横澤利昌（亜細亜大学経営学部教授、本学会理事）

昭和16年、盛岡生まれ。早稲田大学大学院商学研究科修了。ブリティッシュ・コロンビア大学客員教授。日本テレビ「世界一受けたい授業」などマスメディアでも幅広く活躍中。『老舗企業の研究－100年企業に学ぶ伝統と革新』（編著、生産性出版、2000年）、『顧客価値経営－経営品質の理論と実践』（編著、生産性出版、1998年）など著書・論文多数。日本経営関連学会協議会理事、ファミリービジネス・ネットワーク・ジャパン理事、実践経営学会会長、日本学術会議研究連絡委員、経済産業省「ファミリー・ビジネス研究会」委員などを歴任。



小林林之助（株式会社あみだ池大黒代表取締役会長）

大正 10 年生まれ。昭和 18 年 9 月、京都帝国大学経済学部卒業、住友本社入社。同年 10 月、海軍に応召、海軍主計大尉。昭和 23 年 4 月、丸紅株式会社入社。昭和 28 年 2 月、あみだ池大黒代表取締役社長就任。平成 7 年 5 月、同社代表取締役会長就任。その他、学校法人甲南学園常任理事、財団法人仁明会病院会長、大阪府菓子工業協同組合副理事長・常任理事、大阪府菓子商工協同組合連合会常任理事などを歴任。産業功労賞（昭和 61 年）、黄綬褒章（平成 6 年）、大阪市民表彰（平成 19 年）などを受賞。



事務局報告

本フォーラムは、2010年5月に誕生した事業承継学会のお披露目的な位置づけのイベントとして、本学会と同志社大学 ITEC との共催という形で開催されました。開催に当たり京都商工会議所より後援を受けました。

会の冒頭、本学会代表理事の中田喜文氏より開会の挨拶があり、学会設立経緯、本フォーラムの趣旨、協力者への感謝の言葉が述べられました。

第Ⅰ部（基調講演）では、まず石田隆一氏より「企業の永続と発展」と題する講演が行なわれました。「はかりのイシダ」の呼び名で知られる(株)イシダは、1893年に京都で創業された精密機器メーカーであり、世界各地に事業展開する京都発グローバル企業の代表例の一つです。創業者から数えること4代目に当たる石田氏は、この春に42年の長きに渡って務められてきた社長職をご子息に譲られました。講演においては、同社入社以来半世紀に及ぶ経営活動のなかで得られた経験、教訓が語られました。講演の冒頭、利益至上主義的な今日の資本主義のあり方を見直す時期に来ており、「道経一体」、道徳と経済のバランスをとることが大切であることが強調されました。その上で、石田氏は、若き日の苦労経験に立ち返り、そのなかで行き着いた自らの経営スタンスとして、次のように述べられました。「会社の経営は人々に喜ばれる、適したものをつくること。そのためには必要条件が三つある。一つ目は共通の目標を持つこと（最大の会社ではなく最良の会社にすること）。二つ目は共通の経営理念を樹立すること（「三方よし」）。三つ目は一人一人が品性、人格を高め、そういう人の寄り集まりである会社の“社格”を高めていくこと」。

つづいて、横澤利昌氏より「老舗企業（100年）から学ぶ事業承継」と題する講演が行なわれました。横澤氏は日本を代表する老舗研究者の一人であり、講演においては、ご自身の長年にわたる老舗研究の成果に基づき、長期の時間軸でとらえる事業承継について議論が行なわれました。そのなかで、老舗企業の強さ（90年代の“失われた10年”においても老舗は強かった）の要因として、「現代経営に通じる老舗の経営哲学」、「超長期的視点コスト意識徹底、身の丈経営」、「変わるもの、変わらないもののバランス（保守と革新）」の3点があげられました。また、講演のなかで、いったん倒産後に再生したある老舗のケースが具体的に示されました。最後は、禅の格言「吾唯足知」を踏まえつつ、「承継の要諦は拡大しないで活性化すること。拡大するならもっと多くの人材を育てること」という言葉で結ばれました。

つづく第Ⅱ部では、「先達に聞く事業承継の知恵」と題して、小林林之助氏より対談形式で事業承継に関する経験や考えを伺いました。(株)あみだ池大黒は、1805年に大阪で創業された菓子メーカーであり、大阪名物「岩おこし」・「栗おこし」の元祖として知られます。創業者から数えること5代目に当たる小林氏は、戦後初期より社長職を務められ、1995年にご子息に社長職を譲られました。講演においては、まず同社の沿革、承継軌跡の概要が示された後、前任者がやるべきこと（後継者（子）が引き継いでもよいと思える蘇力ある企業にしておくこと、子の資質をよく見極めておくこと）、後継者教育の要点（高い人格、

広い見識、バランス感覚、旺盛な責任感、常に先頭を行くという感覚等)、社外勤務経験(海軍での仕官教育、商社での海外勤務)、幾多の危機とそれへの対応、危機に際しての女性の働きについて述べられました。最後に、21世紀の経営者に向けて、「自分の事業に自信と誇りを」、「常に先達への報恩感謝」、「自分の育った『ふるさと』への愛着と国家に誇りを」、「『のれん』は風にそよぐ葦ー基本を忘れるな」、「『のれん』にあぐらをかくな」、「『温故知新』、日々新たに」、「事業の承継と共に日本の心(誠・和)の継承も」といったメッセージが発せられました。

なお、本フォーラムの出席者は78名でした。なお、終了後、出席者の中から15名の方が新たに本学会に入会されました。